

付録 【用語解説】

ージボタンという。

・リップカレント……リーフの切れ目や岩礁帯の狭い水路に発生する潮流。局所的に激しい流れとなる。口笛に似た流れなのでこう呼ばれる。

・中性浮力……潜水中自分の身体が、重力によって沈んでいかない、浮力によって浮いていかない、つまりある水深において、沈みもしない、浮きもしないといった状態をいう。この状態を作るには、固定的なウエート量の加減、BCDへの空気の補給排気、呼吸量の加減によって行う。

・スキューバ (SCUBA) ……self-contained underwater breathing apparatus (自動空気調整器) の頭文字で、スクーバともいう。一般的には高圧圧縮空気を詰めたタンク (ボンベ、高圧容器) と、レギュレーター (呼 吸器・略してレギ) で構成される潜水器。潜水者が自分で使う空気を自身で水中に持ち込むことから自給式潜水装置という。

・毛細管式水深計……「気体の体積は圧力に反比例する」というボイル法則をそのまま目に見えるようにしたものだ。 細い透明なビニール管の片方をふさぎ、片側から水が入るようにし、半分まで水が入ったら水深十メートル、三分の二までなら水深二十メートルと水柱の長さで水深を知る。 自作できる。

・ページボタン……一般にレギュレーターはタンクに接続するファーストステージと、口にくわえて呼吸をするセカンドステージで構成される。セカンドステージの中央に空気を供給する弁のレバーを強制的に押し空気を出すことができるボタンがある。これをパ

・減圧表……潜水器を使用して潜るとき、呼吸する気体は一般的には空気で、空気に含まれる窒素が、圧力によって体内に溶解し、浮上 (減圧) したとき体内で気泡となり人体にさまざまな傷害を及ぼす。これを減圧症という。この減圧症を防ぐため、潜水にはあらかじめ潜水深度に対して潜水時間や浮上時間が決められている。これを減圧表といい、海面に加わっている大気圧を基準に作成されている。高所にある湖などの場合には湖面に加わる大気の圧力は低くなるので、減圧

表にある潜水深度を修正して使わなければ減圧症に罹患することになる。

・減圧停止……潜水すると空気に含まれる窒素が身に溶け込む。この窒素が浮上つまり大気圧下に戻ったときに体内で気泡化してさまざまな障害をおこす。これを防ぐために水深三メートルや九メートルなどの水深で一定時間過ごし、気泡化しないように体内から窒素を排出させることをいう。

・無限圧潜水……前記の減圧停止を必要としない範囲で潜水すること。

・窒素酔い……空気は八十パーセントの窒素を含む。窒素は圧力が高くなると麻酔作用をおよぼす性質がある。そのため深く潜れば潜るほどダイバーはこの影響を受け、唐突な行動を現し危険に陥る。

・チャンバー……潜水病（減圧症）に罹った人に、水中の圧力あるいはそれ以上の圧力を掛け、徐々に大気圧に近づけながら体内に溶解した窒素を排出させる治療装置。再圧室ともいわれる。

・矩形パターン……減圧表の使用にあたっては、その潜水で到達した水深を潜水深度とする原則がある。例えば水深三十メートルに五分いて、その後十メートルにいても減圧表の三十メートルの潜水時間に従わなければならぬ。ダイバーの潜水行動プロフィールは矩形となる。スキューバの場合、おうおうにして深度が一定しないので、標準減圧表の矩形型の潜水は実際の潜水に合致しにくい。ダイバーにとってこの不合理を解消したのがダイビングコンピュータである。だが、ダイビングコンピュータにすべてをまかせるのは慎まなければいけない。

・アルゴリズム……計算や問題を解決するための手順や方式

・フリーフロー……レギュレーター機構による、または何らかの原因によって、吸気弁から空気が出っ放しになること。